

三和町 まちづくり基本構想



平成24年3月

三和町まちづくり基本構想策定委員会



三和町まちづくり基本構想
策定委員会

委員長 柴 崎 満

日頃から三和町の地域振興に、ご協力を賜り厚く
お礼申し上げます。

この度、三和町まちづくり基本構想が策定されま
した。

本構想の策定にあたっては、「大学等と地域の連
携モデル創造事業」(平成20年度～21年度)及び「大
学等と地域の連携したまちづくり推進事業」(平成
22年度)の採択を受け、「中山間地域における市民
と学校が連携したまちづくり」をテーマとして、三
和町地域振興協議会、三和支所、福島工業高等専門
学校の三者が連携・協力して取り組んで参りました。
さらに、平成23年度は、それまでの取り組みを基に、
基本構想の具体的な内容を策定するために、三和町
まちづくり基本構想策定委員会を設立し、福島工業
高等専門学校の齊藤充弘准教授をアドバイザーにお
願いして、3回の策定委員会と7回の作業部会を開
催し取り組んで参りました。

最初の取り組みから、時間を要したことへの批判
も十分承知しておりますが、時間をかけたからこそ、
策定に携わった委員の皆さんからも三和町の様々な
ことを深く理解できたとの声も頂いております。

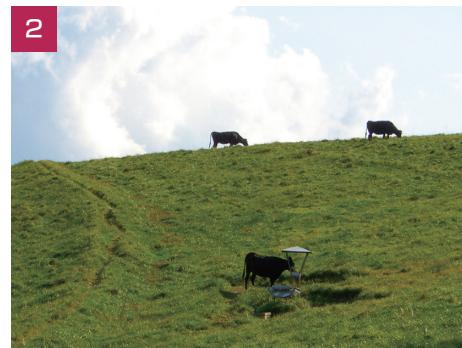
皆さんには、この基本構想の内容をよくご覧に
なっていただき、三和町の課題と魅力を再確認する
とともに、将来に向けてまちづくりを推進する指針
としていただければ幸いです。

最後に、三和町まちづくり基本構想の策定にあ
たって、携わっていただいた三和町地域振興協議会
及びまちづくり事業作業委員会の皆さん、地区懇談
会等に参加していただいた三和町の皆さん、三和支
所の職員、そして福島工業高等専門学校の齊藤充弘
准教授をはじめ学生の皆さんに感謝申し上げ、基本
構想策定にあたっての言葉と致します。

上三坂のやっしき踊り

きらめく自然とふれあいの里

三和



- 1 芝山自然公園 2 芝山市営牧場 3 上三坂本町のアズマイチゲ 4 上三坂綿津海神社のカタクリの花
5 上三坂綿津海神社のニリンソウ 6 下三坂入合の福寿草 7 下三坂の種まき桜 8 下三坂の藤内滝 9・10 差塩湿原のミツガシワ
11 上永井の船石の森 12 下永井軽井沢ガロ山のアカヤシオ 13・14 下永井軽井沢ガロ山のイワウチワ 15 県立水石山自然公園
16 下市萱新田のヤマザクラ

差塩良々堂三十三觀音靈場（十六羅漢）



渡戸の三匹獅子舞



4



5



6



10



11



上永井のモミジ



15



16



三和町まちづくり基本構想

■目次■

はじめに

巻頭グラビア

1 三和町の現状とまちづくり基本構想について	1
課題と魅力	1
将来に向けて	1
まちづくりの必要性	2
2 理念、目標、構想の柱	3
3 構想の体系（大字地区毎）	16
上三坂区	16
中三坂区	16
下三坂区	17
差塩区	18
上永井区	18
下永井区	19
合戸区	19
渡戸区	20
中寺区	21
下市萱区	21
上市萱区	23
4 構想実現に向けて 住民一人一人が主役、みんなで取り組むことの宣言	24
5 三和町まちづくり基本構想の策定に携わって	26
6 おわりに 構想の具現化に向けて	27
7 その他、データ資料	28
事業の軌跡	28
事業組織	37



1.三和町の現状と まちづくり基本構想について

課題と魅力

三和町の人口は、昭和35年の7,831人をピークに減少を続け、平成22年の国勢調査ではほぼ半減の3,424人となり、この減少傾向は現在も進行中である。高齢化率も30%を超えており、限界集落真近であると危惧される地区も出はじめている。また、少子化による子ども数の減少により、小中学校の複式化やクラブ活動の制限など教育環境が年々悪化している。

三和町の基幹産業である農業・林業においても、とどまることのない米価の下落そして木材価格の低迷と後継者不足に衰退の一途を辿り、空き家となる農家も増加している。

また、少子化と若年層の人口流失により、祭りなど地域の伝統行事の維持や継承に苦慮しているなど三和町の抱える課題は多い。

一方、三和町には水石山、雨降山、芝山などに代表される山々と多様な山林が広がり多くの動植物が生息している。町内を流れる好間川、三坂川、小玉川の清流には魚や水生昆虫が生息し、桜の古木や貴重な山野草の自生地など、すばらしい景観と豊かな自然環境を有している。

また、町内で生産される農産物は標高の関係で品質がよく、特に高原野菜は柔らかさと甘みがあり地区外の人々からも高く評価されている。

さらに、じゃんがらや獅子舞、やっしき踊りなどの伝統芸能が町内各地区で継承され、特に、渡戸の三匹獅子舞と、上三坂のやっしき踊りは県の指定重要無形民俗文化財に指定されており、貴重な財産となっている。

山間に広がるのどかな農村風景と、かつての宿場の名残をとどめる集落などは人の心を和ませてくれる。

将来に向けて

1. 自然に関して

三和町の大部分を占める山林を多様な森林として保全し、貴重な樹木や山野草を保護していく。河川については、現在の環境を保全し、交流や学習の場として活用するとともに、三和町の自然の豊かさを外にPRする。

2. 農産物の活用

美味しい高原野菜の生産量を増やすとともに販路の拡大を図る。また、この野菜を加工した特産品や郷土料理を創作する。

3. 歴史、文化、伝統芸能の継承

各地区に残る伝統芸能の歴史や由来を正しく次世代に継承する。また、歴史的建造物や町並みには由来を説明する案内看板等を設置し、その素晴らしさを外に向けてPRする。

4. 人とのつながりに関して

現在各地区で行われている行事を通して、世代や柵を超えて交流する機会を創出する。また、各種のイベントを開催して地域外の多くの人々との交流を図る。

まちづくりの必要性

少子高齢化の進行により活力を失った地域の振興を図るため、まちづくりが全国的に叫ばれ、いわき市内各地でも地域ごとに地域振興の指針となる「まちづくり基本構想」等を策定し計画的にまちづくりに取組んでいる。

しかし、三和町はいまだに基本計画が策定されていないため、計画的なまちづくりに取組めない状況にある。

三和町全体が共通の認識のもとに一丸となりまちづくりに取組むため、早急に「まちづくり基本構想」を策定する必要がある。



2. 理念、目標、構想の柱

理念

三和の豊かな自然を将来にわたって維持し、生活する人がいきいきと暮らし、そこに集う人が加わり、輝くまち・三和の里づくりの実現をめざします。

四季により移り変わる豊かなまちの顔を活かし、すべての人が住み続けたいと思う持続可能なまちづくりに取り組みます。

基本目標

「自然が輝き・人が輝き・まちも輝く 三和の里づくり」
～春は花、夏は星、秋のもみじ、冬の人情、
いっしょに住まんしょ三和のまち～

構想の柱

まちづくりに取り組む中心（柱）として、次の4つを掲げて取り組みます。

1. 四季を感じ、人の心を豊かにする美しい自然環境
2. 元気とふれあいを生み出す豊かで美味しい農産物
3. 世代を超えて持続する誇りある伝統と歴史
4. 住み続けたい、暮らしやすい生活環境

構想の柱 ① 四季を感じ、人の心を豊かにする美しい自然環境

1. 将来にわたって維持する

■山林（水石山、芝山、雨降山、塩見山、三倉山、鶴石山、良々堂山、ガロ山、ニツ石山）

すぐに取り組むべきこと、みんなですぐに取り組むことができること

- 土砂崩れ対策をとる。
- ゴミの不法投棄対策をとる。

長期的な視点で取り組んでいくこと

- 山林を所有することに魅力を見出す。
- 生活の中で、山林資源の活用を検討する。
- 杉から雑木（広葉樹）への転換を図り、人工林から天然林へ戻していく。

■河川・湿原（好間川、三坂川、小玉川、差塩湿原）

すぐに取り組むべきこと、みんなですぐに取り組むことができること

- 排水処理を改善し、汚した水は浄化する。
- 増大するヨシの量を減らすための作業をする。

長期的な視点で取り組んでいくこと

- 下流の市街地に上質な水を提供する水源地としての役割を果たす。
- 堤防などの安全性を確保するための整備をする。

■農地

すぐに取り組むべきこと、みんなですぐに取り組むことができること

- 休耕田畠を活用する。
- 耕作放棄地をなくし、活用する。

2. 新しい価値を見出し、活用する

すぐに取り組むべきこと、みんなですぐに取り組むことができること

- 子供たちが川遊びや魚釣りをできる環境を整える。
- 農村風景の維持という観点から、草刈りや清掃を行う。

長期的な視点で取り組んでいくこと

- 生息する貴重な木や草花などについて学習し、記録する。
- 小さな生物や魚などが多く生息することができる環境を整える。
- 子供が自然環境の維持に参加する機会をつくる。
- 山や川などを介して、地区内外の人が交流する機会をつくる。

3. 魅力を内外に発信する

すぐに取り組むべきこと、みんなですぐに取り組むことができること

- 清掃などに参加してもらい、作業を通して魅力を実感してもらう。
- 予供が自然を体感し、遊びながらその魅力に触れる機会をつくる。

長期的な視点で取り組んでいくこと

- 川の水質の良さを明確にし、内外にPRする。
- 若い世代に自然環境を維持するための知恵を教える機会をつくる。
- 自然に触れ、観察するイベントなどの機会をつくる。
- 携帯電話などの情報通信技術を活用し、開花情報などリアルタイムで魅力を発信する。

具体的な取り組み【大字地区毎】

【三和町全体】

- 歩け歩けリフレッシュ芝山の活用
- いわき、平田、古殿交流会の活用
- 水石山の県立自然公園としての活用
- 桜や桜のある景観の保存と活用

【上三坂】

- 芝山の遊歩道整備
- 予供会のマツムシソウを増やす活動
- 綿津海神社の自然の維持・管理

【中三坂】

- 三坂川沿いの桜の維持・管理
- 古峯公園の維持・管理

【下三坂】

- 三坂川沿いの桜の維持・管理
- 福寿草のPR

【差塩】

- 乾草センター近辺の自然の維持・管理
- 差塩湿原の維持・管理

【上永井】

- 高戸の渓谷の遊歩道整備
- 福寿草のPR

【下永井】

- 軽井沢地区の自然と触れ合う活動の継続
- ロマンチック街道の整備

【合 戸】

- 水石山の維持・管理
- 河渦渓谷のPR

【渡 戸】

- 高野川の維持・管理
- 鶴石名水へのアクセス確保

【中 寺】

- 杉山の維持・管理
- 好間川の支流の環境保全と活用

【下市萱】

- 新田地区の自然の活用
- 大山桜の維持・管理とPR
- 林道の活用

【上市萱】

- 塩見山や雨降山の維持・管理と活用
- 一杯清水の管理と活用



構想の柱 ② 元気とふれあいを生み出す豊かで美味しい農産物

1. 新鮮な高原野菜を提供する

■他の地域の野菜との差別化を図る。

すぐに取り組むべきこと、みんなですぐに取り組むことができること

- 旬の美味しさ（柔らかみと甘み）をPRする。

長期的な視点で取り組んでいくこと

- 安さだけではなく、高品質な農作物を生産していく。
- 季節限定でも良いので特徴のある農作物を開発し、四季を通して葉物と根菜などをバランスよく提供していく。
- 最低限の農薬の使用で生産していく。

■供給体制を確立する。

すぐに取り組むべきこと、みんなですぐに取り組むことができること

- 生産者、販売者の意識改革をして、良い野菜を生産し、提供する体制をつくっていく。
- 商工会を窓口としてPRしていく。

長期的な視点で取り組んでいくこと

- 生産量を増やし、安定して一定量を提供することのできる体制をつくっていく。
- 生産者側のネットワークを広げ、店頭で不足した時に取り寄せができる体制をつくる。
- インターネットによる販売や商品の宅配など、複数の供給体制をつくる。
- 野菜だけではなく、花などの多様なメニューを供給することができるようとする。
- 規模を拡大するのではなく、小規模農家の良さを活かして提供することのできる体制をつくる。

2. 生産と販売を通して交流する

すぐに取り組むべきこと、みんなですぐに取り組むことができること

- 農業支援隊などを活用して、交流を通した生産を拡充していく。
- 地区外の人が農業を体験する機会をつくる。

長期的な視点で取り組んでいくこと

- クラインガルテン（市民農園）や住宅付きの貸し農地などを通して、使用されていない農地を地区内外の人に貸し出していく。
- ふれあい市場の会員を増やしていく。
- 花見やそば打ち、食などをセットした収穫ツアーを企画する。

具体的な取り組み【大字地区毎】

【三和町全体】

- ふれあい市場の活用
- 豊富な野草や山菜
- 大師講団子、柏餅、春のぼたもち、秋のおはぎ、漬物

【上三坂】

- 農家レストラン
- そば打ちの有段者
- 郷土料理：かきのり、しみもち、おはぎ、白がゆ、けんちん汁、しらあえ、こづゆ、はちへい

【中三坂】

- 郷土料理：しみもち、しみ大根、タニシ料理、どじょう汁

【下三坂】

- 柏の里（農家レストラン）
- 郷土料理：しみもち、けんちん汁、煮物、キムチ、キュウリの味噌汁

【差 塩】

- 郷土料理：しみもち、しみ大根、ふくふく漬け

【上永井】

- 農家そば屋
- 味噌がおいしい
- 郷土料理：しみもち、しみ大根、けんちん汁

【下永井】

- 大豆とそばが名産
- そばと味噌づくりが盛ん
- 三和地鶏
- 郷土料理：しみもち、しみ大根

【合戸】

- そばともちが名産
- 郷土料理：萱刈り餅

【渡戸】

- 郷土料理：みよちゃん漬け

【中寺】

- 郷土料理：じゅうねん味噌団子、しみもち

【下市萱】

- 郷土料理：けんちん汁、しみもち

【上市萱】

- 郷土料理：あんこう、とろろ汁



構想の柱 ③ 世代を超えて持続する誇りある伝統と歴史

1. 維持・継承する

すぐに取り組むべきこと、みんなですぐに取り組むことができること

- 少子化の中で、若者の参加を確保し、伝統と歴史を継承していく。
- 獅子祭りやじゃんがら念佛踊り、いわきやっしきおどりなど伝統行事の由来・内容について、正しく若い世代に伝達していく。
- 若者が祭りに参加するだけでなく、さまざまな役目を経験させることを通して、伝統芸能の面白さを伝えていく。

長期的な視点で取り組んでいくこと

- 祝宴などの機会に「いわきめでた」を披露する機会をつくっていく。
- 民話や言い伝え、昔話などを収集・記録し、大切に保存し伝える機会をつくっていく。

2. 目を向ける

すぐに取り組むべきこと、みんなですぐに取り組むことができること

- 歴史ある獅子祭りやじゃんがら念佛踊り、いわきやっしきおどりなどについて、外に向けて情報を発信する。

長期的な視点で取り組んでいくこと

- 獅子祭りについて、三和町内でより多くの人に披露する機会を設ける。
- 萱葺き屋根の民家や蔵、歴史ある寺社とともに、昔ながらのまちなみを貴重な魅力としてとらえ、外に向けて情報を発信する。
- 神社やお地蔵様、石仏などの調査を行い、各地区、そして三和町の歴史を紐解いていく。
- 伝統と歴史の由来・内容、分布がわかるような地図を作成する。

3. 交流の場とする

すぐに取り組むべきこと、みんなですぐに取り組むことができること

- 予供から大人まで多様な世代が集まる祭りを機会として、うまく活かす。
- 女性の集まりである十九夜に、若い人もどんどん参加させていく。
- 一年間を通して鑑賞することのできる花、開催されるイベントのカレンダーを作成し、PRする。
- ジャんがら念佛踊りを活用した事業を実施する。

長期的な視点で取り組んでいくこと

- 集まるものの楽しみをつくっていく。

- 世代を超えた交流の形態を創出する。
- 獅子祭りにそばの花観賞をセットで外から人を呼び込む企画をつくる。
- 小型バスで旧道等を巡回する企画をつくる。

具体的な取り組み【大字地区毎】

【上三坂】

- 宿場町のまちなみ、室町時代の屋号、三倉城址、三倉の薬師様、耕山寺の菊の紋・葵の紋章、道端の愛宕様やお地蔵様
- 弘法大師が立ち寄った由来
- 綿津海神社例大祭

【中三坂】

- 古峯神社の歴史・文化、胡瓜天皇のツカ石・屋敷跡、マンダラさまの三日月石、八坂神社・御塚神社の信仰、十九夜、祝ようの謡、山の神講、釜の神講
- 炭焼き

【下三坂】

- 稲荷神社祭典、山の神講、お日待、観音講、釜の神講、あわしま講、鳥小屋
- 竹炭
- 腕の良い大工

【差 塩】

- 良々堂三十三観音、石仏、東作の四門
- 諏訪神社・熊野神社・御塚神社の祭り、はよなわつくり

【上永井】

- 萬靈等、石仏、郷蔵、屋号
- 永井神社の大祭、三匹獅子、愛宕様、東堂山、大黒様、湯殿様、十九夜、しめ縄づくり、ぞうりづくり、道刈（草刈）

【下永井】

- 大山祇神社の天狗のお面、天皇の写真
- 三匹獅子、永井神社の5年祭り、地蔵尊祭り

【合 戸】

- 三匹獅子
- 三阪街道の関所・木戸
- 恵比寿講様、阿弥陀祭典

【渡 戸】

- 三匹獅子、文殊菩薩

【中 寺】

- 宿場町のまちなみ、屋号、薬師堂、馬頭観音、お日待講、恵比寿様、大師講様、月見どろぼう、端午の節句

【下市萱】

- 竹の内遺跡、大山祇神社、諏訪神社の例大祭、山の神講、雲月様、觀音様、十九夜

【上市萱】

- 宿場町のまちなみ、石碑、安産地蔵、馬頭観音、庚申祭り、弁天祭り、山の神、地蔵講



構想の柱 ④ 住み続けたい、暮らしやすい生活環境

1. 安全・安心を提供する

すぐに取り組むべきこと、みんなですぐに取り組むことができること

- 各地区で、自主防災組織を見直し、三和町全体として実際に機能する組織として確立していく。
- 日頃より、消防との連携を図っていく。
- 各地区で避難場所を明確にし、緊急時の組織表を作成し、担当者の役割を明確にしておく。
- 危険な場所を明示し、周知を図る。
- 冬期間の降雪等による道路交通の安全確保を、関係機関に要望していく。

長期的な視点で取り組んでいくこと

- 各種団体の意識改革をして、位置づけと責任を明確化させていく。
- 住んでいる人が全員参加して、青年会や消防団を組織していく。

2. 元気で楽しく生活する

すぐに取り組むべきこと、みんなですぐに取り組むことができること

- 日頃より、隣近所においてコミュニケーションを図っていく。
- 元気な高齢者が多い特徴を活かして、高齢者どうしや他の世代と交流する機会をつくっていく。

長期的な視点で取り組んでいくこと

- 農作業や庭の手入れ、山登りなど常に自然と触れ合う作業を通した健康維持と生きがいを共有していく。
- 農作業の楽しさ、やりがいを伝えていく。
- 特産物を作るなど、目標を定める。
- 「人のあたたかさ」を活かして、町内外の人とのふれあいを創出していく。

3. 子供を安心して育てる

すぐに取り組むべきこと、みんなですぐに取り組むことができること

- 将来を担う子供たちが活発な学校生活を送ることができるように、地域としてもサポートしていく。
- 保育所を含めた学校の教育環境を整え、親が「通わせたい」と思う学校をつくっていく。
- 親世代が子供世代に対して、地域のならわしや良さを伝え、子育てに関してサポートしていく。

- 若者の働く場所、病院・医療、縁結びについては、各地区共通の課題として取り組んでいく。

具体的な取り組み【大字地区毎】

【三和町全体】

- 婦人消防隊、いきいきデイクラブ、三和の里フェスティバル、組総会・懇談会、ふれあい館での行事

【上三坂】

- 子供会のマツムシソウを増やす活動や神輿、独特の方言

【中三坂】

- 山桜を植える活動、草刈り活動、体育祭やバーベキュー、子供会の桜を植える活動

【下三坂】

- 子供会の鳥小屋、運動会でのお嫁さん紹介・新婚さんゲーム

【差 塩】

- 学校での運動会や学習発表会、パソコン教室や体操教室

【上永井】

- 子供会の鳥小屋、川遊び、道路で遊ぶことができる
- 老人会と小学生の交流

【下永井】

- 軽井沢地区での川遊びなどのイベント、アカヤシオ鑑賞会
- 水晶の採掘跡

【合 戸】

- 水石山での植樹活動、区民忘年会

【渡 戸】

- 高齢者のゲートボールサークル、美化活動

【中 寺】

- 新年会、神仏事への徹底、高校生や青年会の活動への補助

【下市萱】

- 新年会、青年団や交通安全母の会の活動

【上市萱】

- 葬式や結を通した伝統の言い伝え



3. 構想の体系

上三坂区

かみみさか

現状と課題

- 観光資源として、芝山を中心とした自然豊かな地区である。
- 行事は、綿津海神社例大祭が主だ。
- 高齢化が進み区民が減少し、とりわけ子供が少ない。
- 商店が減り買い物をするのに不便だ。

戦略・取り組み

- 区民の人足、ボランティアで河川の堤防沿いや、農道脇に桜の木やアジサイ等を植え環境美化に取り組んでいる。
- いわき市、平田村、古殿町の交流会（花合会）を行っている。

方策・行動計画

- 人的交流について、現在行われている行事に、若い人が参加しやすい形態、あり方について検討し、世代を超えた交流を図っていく。
- 24年度より上三坂地区独自のまちづくりを検討するため、組織を立ち上げる事になった。（三和町のまちづくりと連携しながら。）

役割・時期

- 上記にあるように、地区民の中から委員を選び、その人たちを中心にまちづくりに取り組む。

中三坂区

なかみさか

現状と課題

- 古峯神社周辺の草地に山桜を主体に花木を植え、全地区民による維持管理に努めている。当神社は、火の神として知られ例大祭（5月）には、他の地域から多くの参拝者で賑わっている。
- 当地区を東西に流れる三坂川は、イワナ、ヤマメをはじめ各種の魚が生息し、川沿いには子供会により桜の苗木を数年かけて植え、将来は花見の時期に地区民及び周辺の方々の憩いの場になる様、維持管理に努めている。
- こうした取り組みを継続するには、若い世代の理解と参加が不可欠である。

戦略・取り組み

- 古峯神社の例大祭をはじめ、当地区で昔から継承してきた各行事について、地区民が理解を深め積極的に参加し、外部へ発信する手段を構築し、人を呼び寄せられる様努力する必要がある。

方策・行動計画

- 地区民が現状を良く理解し、課題を共有して地区執行部を中心となり改善する方策をとる。

役割・時期

- 地区執行部を中心とした地区内の各団体の長などで構成する会を作り、一定期毎に会合を持ち、地区の未来像について話し合う。

下三坂区

しもみさか

現状と課題

- 三坂川沿いの桜、市指定文化財の天然記念物の種まき桜、福寿草の群生地など、自然の恵みがたくさんあるが、保護し育てていく為の人材が不足している現状であり、個人の力に依っている。地域での認識も非常に不足している。

戦略・取り組み

- 地域で自然の良さを再認識し、手入れするためのチームを作り対応していく。若い人たちなどの戦力を地元だけでなく、他地区などから募集していきたい。

方策・行動計画

- 福寿草祭りなども、今後三和町地域振興協議会が主体となり、下三坂区が後援する形を取っていきたい。三和だけでなく市内全体などへの呼びかけをメディアの力を最大限利用したい。

役割・時期

- 樹木の手入れなどに、ボランティア人材を募集する。



差塩区 さいそ

現状と課題

- 小玉川の清流（梅花藻がある）、差塩湿原、ぶな石、良々堂山など魅力ある財産があるが、外に向けての魅力の発信が出来ていない。

戦略・取り組み

- ぶな石周りの草刈り、差塩湿原の除草、藤内滝への歩道の草刈りなど、区民一丸となって保護活動を行っている。

方策・行動計画

- イベントなどを通じて外に向かって魅力を発信したい。

役割・時期

- 区会が先頭に立ち、各種団体の協力により実行したい。

上永井区 かみながい

現状と課題

- 若い世代が現在行われている行事等に無関心である。ホタル、トンボ等の生物の減少。

戦略・取り組み

- 風景が財産となるよう貴重な魅力、財産、資源として保存維持していく取り組みをする。生物が再び生息することのできる、環境づくり再生に取り組んでいく。

方策・行動計画

- 現在行われている行事を中心として世代の柵を越えて参加し、交流する事の出来る機会を創出したい。

役割・時期

- 婦人消防隊、老人会、消防、子供会、大字民がそれぞれどのような方法があるか地区全体で検討し、取り組んでいく。

下永井区 しもながい

現状と課題

- 若い人が永井の郷に戻って来られる様に地域一体となって体制をつくる。嫁不足が大きな問題となっている。

戦略・取り組み

- 永井地区は、国道49号線から山の中に入るため、なかなか立ち寄ってもらえない。農家そば屋さんの様に名物を地域の人達に作っていただく。

方策・行動計画

- 河川、道路の整備をしていただく。合坂のトンネル化、また、道路脇5mくらいまで立木を切ってもらう。

役割・時期

- 地区民、大字三役の人達に協力してもらい、区民一体となって三和町まちづくりが動きやすい様取り組む。早め（年内）に行動を起こす。

合戸区 ごうど

現状と課題

- 水石山：展望台遊歩道の管理、トイレの荒廃。古い建物の残骸。
- 河 川：子供が遊べない。ヨシが繁茂し危険。ホタルがいなくなった。
- 祭 り：笛、唄が出来なくなった。若い人の参加が少ない。
- 通 信：光回線が通っているのに、利用出来ない。
- その他：地区全体の集まりが少ない。若い人に伝統の継承が困難。休耕田の活用。

戦略・取り組み

- 水石山：遊歩道に桜の植樹。区民による山頂の草、放牧馬を利用した観光客の誘致。
- 河 川：区民による河川の草刈作業。他地区からの河川を利用した催しのPR。
- 祭 り：祭りには祭りの装いが必要→浴衣の着用をすすめる。
- 通 信：NTT東日本によりインターネットのPR。
- その他：区民忘年会や区民ピンポン大会等の実施。

方策・行動計画

- 水石山：公園整備を県に要望する。水石山から小川までの車道の整備要望。
- 河 川：水質保全、動植物の生態系の保全。
- 祭 り：若者に対する祭り参加へのPR。笛、唄の後継者育成。
- 通 信：NTT東日本に対し、光通信利用の要望。
- その他：児童、青年、高齢者との交流のPR。

役割・時期

- 水石山：雨乞い祭の復活
- 通 信：インターネットの上手な利用の仕方講習会の開催。

渡戸区
わたど

現状と課題

- 江戸時代からの歴史がある三匹獅子が県指定重要無形民俗文化財に指定されて、現在のところは毎年問題無く執行されているが、今後少子化により継承が難しくなってきている。また、じゃんがら念佛は、渡戸地区内の2地区に分かれて活動しており、若者が団結して継承に努めている。

戦略・取り組み

- 本来、三匹獅子を舞うのは小中学生だが、居ない年は高校生や大人が舞い伝統芸能の伝承を絶やさない様、各地区で工夫する。昔からの取り決めを守りつつ、時にはその枠を広げ継承に取り組む。じゃんがら念佛については、他地区の若者も入れて、人数の維持に努める。

方策・行動計画

- 先祖より伝わって来ている伝統芸能の魅力を発信して地元で若者が生活して子孫を残し、三匹獅子やじゃんがら念佛を伝承することの必要性を知つてもらう。今後マスコミ等を利用して現在の厳しい状況を知つてもらい、多方面より注目してもらう。

役割・時期

- 各地区的三匹獅子の師匠を中心とした協議会を発足し、今後の獅子祭の執行についての意見交換を密に行い長期的な祭実施予定を検討することとする。その際、若者の参加も不可欠である。

中寺区 なかでら

現状と課題

- 少子高齢化が進行している中で、若い人が都市部へと流れてしまうので、後継者の不足によりいろいろな面で影響が出てきている。

戦略・取り組み

- 現在の環境を保全・維持し、子供達を始め多くの人々が親しみをもって近づくことの出来る場として創造していく。
- 山林資源の活用、昔から残る歴史、宿場町として残る風景等将来に向けて、若い人、また子供達に伝えていき、自然資源を最大限に有効活用し、中寺地区の知名度を少しずつ上げていく。

方策・行動計画

- 昔からの伝統あるじゃんがら念佛踊りを青年会、子供会へも広げて、世代間の交流をはかり、インターネット等で相乗効果を図る。
- 伝統行事の由来、内容について正しく若い世代が代わる将来にかけても維持・継承していく。

役割・時期

- 行政区が先頭に立ち、各種団体と協調しあって、先人が築いた伝統と山林資源及び自然資源を守りながら最大限有効活用し、年間を通して担い手の育成と地区の活性化を図る。

下市萱区 しもいちがや

現状と課題

- 河川に関連して、昔は太いドジョウがいた。沢ガニもいたが、今は見えなくなってきた。原因は河川改修に加えて広葉樹林が減少したため川の水量が少なくなってきたためである。
- 林道の整備が進んだが、それによって大雨の時には、泥水が増え、川の水が濁ってしまう。
- 田、畠、山林の利用が制限されており、新規に開発する用地がない。
- イベントを開催しても一過性で終わってしまう。
- 懇談会等を開催しても自主的に参加してくれる人が少ない。

戦略・取り組み

- 山林の整備
- 里山を作る。
- 川を汚さない生活。

方策・行動計画

● 山林の整備

針葉樹の間伐を行う。環境税を利用する。→森林組合等を使う。

広葉樹を増やす。

〈方策案〉

自然増加を待つ。苗を購入し植林する。苗木を作り植林する。種を拾ってきて山にまく。実のなる木を増やし鳥を利用して種をまく。

● 里山を作る。

家の近くまでを広葉樹に変えていく。

実のなる木を植える。例：柿、栗、イチジク、クヌギ、カシ、桜、梅

● 川を汚さない生活

家庭での取り組みとして合併浄化槽の普及（補助金が出る→個人負担有り。）

川を整備して魚が住める環境づくりをする。

役割・時期

● 今すぐ

山林の整備

→針葉樹の間伐をする。

川を汚さない生活

→家庭での取り組みとして合併浄化槽の普及。川を整備して魚が住める環境づくりをする。

● 10年以上先

山林の整備

→広葉樹を増やす。

里山を作る

→家の近くまでを広葉樹に変えている。

実のなる木を植える。（柿、栗、イチジク、クヌギ、カシ、桜、梅）

山の手入れのために町の人の手を借りる。

実を使った特産品の製造販売を行う。

上市萱区 かみいちがや

現状と課題

- 三和の杉、沢渡杉と言われて杉で生計を立てた時代もあったが、現在は高齢化が進む中、材価低迷が響き山林に対し魅力もなく関心がないのが現状。

戦略・取り組み

- 山林については森林環境基金による間伐事業の実施を進め、洪水防止又は木の育成の為にも良いと思う。

方策・行動計画

- 今後、材価低迷が続く場合5～10年後、地蔵尊、巖島神社、山津見神社、馬頭観音等の維持管理が大変である。

役割・時期

- 河川美化運動の一環として年に一回河川の草刈り、春秋には清掃を実施している。また、上市萱の取付道路に桜の苗を植えて環境美化に努める。



4. 構想実現に向けて 住民一人一人が主役、 みんなで取り組むことの宣言

■佐藤 良廣

「三和町まちづくり基本構想」策定に当たられた皆様、ご苦労様でした。

大字単位とする地区毎に、そして三和町全体を対象として魅力、財産にみるよい点、課題にみる悪い点を明らかにすることを通して、三和のまちづくりの要素を明らかにすることが目的であり、各地区の魅力、財産、そして将来に向けてといろいろな課題が提示されました。

何事業を実行するのも、人とのつながりがなければ何も出来ません。まず各自、事業内容等をよく把握し、世代の柵を越えた交流の機会を創出することが大事なのかと思います。そして、地区全体として検討し、取り組む必要があると思います。

■加藤 正直

三和町の活性化の為にも、杉の価額のアップを願う。

■永山シゲヨ

課題も多いが、素晴らしい「宝物」も沢山、沢山ある三和町。住民が楽しめる三和町にみんなで頑張りましょう。

■大竹 浩一

三和町まちづくり基本構想に携わって、皆さんと一緒に三和町の様々な面から話し合いをしてきました。この三和町には私たちの知らないすばらしい歴史、伝統芸能があったことに気付きました。また、豊かな自然にも恵まれています。これらをどう活かし有効活用していくのか、構造は見えてきた様に思います。ひとつでもテーマを掲げて取り組んでいくことが大切だと思います。

■合津 重正

少子高齢化がすすむなか、青年の行動がカギになる。豊かな三和の実現の為に！

■佐藤 昇司

本格的な「地域おこし」の討議。齊藤先生には感謝いたします。これからは、私たち町民が立ち上がらなければなりません。これまで、各種グループが活動・活躍してきましたが、更に今一步、「住みやすい町」にみんなで「力」を出し、「知恵」をしぶって進んで行きましょう。ありがとうございました。これからが「始まり」です。

■小野 多門

正直、基本構想策定まで時間がかかり過ぎでは？ 実現に向けては、一人一人の気持ちを高く持って行くべき。

■根本 一郎

皆様、仕事で疲れている中での会議で大変だったと思います。私が感じた事は、もう少し皆様の意見を聞きたかったと思っています。

■佐藤 信一

地域を引っ張る若手のリーダーの発掘と育成から（酒飲み会より始める？）

■野口 春恵

生まれた時から三和に住んでいる私。知らない三和町がたくさんありました。あらためて、その事に目を向ける機会となったことに感謝します。

■若松 律子

三和町という地域をこれほどまでに深く考えた事はありませんでした。やっとスタートラインに立ったという感じです。これからが大事、有言実行あるのみ。三和町に住む人＝“三和人”である事を誇りに思えるような“里づくり”

三和地区にしかない針仕事の伝承等も一考して頂けたら良いのですが。

■草野 浩三

若者よ、引き継げ、すばらしい伝統を！ 切り開け、希望に満ちた新しい三和町を！

■岡部 義邦

三和町まちづくり基本構想実現のためには、町民一人一人が安心して活動できるよう、放射能の除去が大事で、それと平行して努力し構想実現を計りたいですね。

■秋山 孝男

4年間に渡り、三和町まちづくり作業委員を務めさせて頂きました。福島高専の齊藤先生の下、各地区の作業委員が三和町の現状、そして将来の姿について思いを述べ、その結果として今度の宣言に至ったと思います。今後は、この宣言を三和町として、また各地区において、どう思いどう対応するかにより将来の三和町の姿が見えてくると思います。齊藤先生、長い間大変お世話になりました。

5. 三和町まちづくり基本構想の 策定に携わって

福島工業高等専門学校 建設環境工学科 准教授●齊藤 充弘

この度の三和町まちづくり基本構想の策定にあたり、心よりお喜び申し上げます。この構想においては、良い点も悪い点も含めて、まちの現状を明示するとともに、「自然」、「農産物」、「伝統と歴史」、「生活環境」の4つを柱として、取り組むべきまちづくりの方向性が示されています。ここに、三和町の将来を見すえた、まちづくりを推進するための指針が示されましたので、これからはまちに生活する人、関係する人が一体となって、その内容を実践していくことが必要です。

昨今の中山間地域を取り巻く状況の厳しさの中、全国各地において同様の取り組みをみるとができます。そのような中にあって、本基本構想の特徴として、次のことをあげることができます。

第一に、まちで生活する人（住民）が主体となって、策定したことです。平成23年度においては、東日本大震災後の大変な状況であるにもかかわらず、取りまとめ役となる「三和町まちづくり基本構想策定委員会」と実働部隊となる「作業部会」を立ち上げて取り組みました。まさにまちに住み、活動する人々が中心となって策定したということができます。そこには行政（三和支所）と学校（福島高専）が連携して支援する形で関わることにより、「きめ細かさ」と「ていねいさ」の特徴を表す構成内容となっています。

第二に、三和町内の大字11地区を基本として作業を行い、それを積み重ねる形で町全体としての構想を形づくっていることです。平成20年度から22年度にかけて、地区懇談会（ワークショップ）を49回開催しました。その他にも、まち歩きやイベントの開催など、自ら生活する地区に目を向ける機会を複数回設け、各地区の現状と将来について整理してきました。ここにも、「きめ細かさ」と「ていねいさ」の特徴が表れています。

第三に、身近な「生活環境整備」と「地域振興」という2つの観点より各地区に焦点を当て、導出された指針となる取り組みが、両者の関係性を構築することにつながる内容となっていることです。このことにより、関わる人や立場が変わっても、将来にわたって持続可能な取り組みとしてみることができます。

私自身、地元出身者も含めた学生とともに取り組み始めて4年が経過しますが、あっという間であり、まだまだ学ぶべきこと、取り組むべきことがあると思っております。各地区のみなさんの、作業を重ねる度に高まるまちに対する熱い思いや積極的な姿勢を心強く思い、刺激を受けて、これからも一生懸命に学びながら、まちづくりの実践に取り組んでいきます。

6. おわりに 構想の具現化に向けて

本書には、三和町まちづくり基本構想の「理念」、「目標」、「構想の柱」が具体的に記載されており、また、大字11地区ごとの取り組みも記載されております。

策定に携わった、委員の皆さんとの「みんなで取り組むことの宣言」にもあるように、これからいかにまちづくりを進めるかが重要であり、私達自身の行動が問われています。

この基本構想は、そういったこれから活動の道しるべ、指針となるものです。

三和町の皆さんのが、自らの手で策定した三和町まちづくり基本構想の内容を具現化するために、より一層のご協力を願いします。

最後に、平成20年度から携わっていただいた、福島工業高等専門学校の齊藤充弘准教授に感謝の言葉を申し上げて、本冊子を作成するにあたってのおわりの言葉といたします。

平成25年3月

三和町地域振興協議会
会長 永山肇一



7. その他 データ資料

事業の軌跡

平成20年度

平成20年度においては、次のことに取り組んできた。

1. まちづくりアンケート調査の実施

町の利用形態や魅力・財産、課題を明らかにするとともに、地区懇談会・ワークショップを円滑に進めるための題材とすることを目的に、アンケート調査を実施した。調査は、町内全1,200世帯を対象として、配票調査法により3,000部を配布した。調査項目は、「自身のこと」、「地区の様子について」、「地区的環境について」、「地区での生活とこれからについて」の4項目よりなり、合計39問を設定した。回収数は936票であり、回収率は31.2%であった。その結果、地区の財産や魅力、環境についての評価が明らかとなった。また、困っていることや必要なこと、日常の買物や外出先を明らかにすることができた。

2. 地区懇談会・ワークショップの開催

住民一人一人の生の声を聞き、町の現状と課題を明らかにし、まちづくりについての意見交換と、その必要性についての意識を共有することを目的として、地区懇談会・ワークショップを開催した。平成20年度は取り掛かりとして、町内5つの小学校区毎に開催をし、その他に欠席者向けのワークショップも開催した。最終的には、合計144名の参加者の下、進められた。

地区懇談会・ワークショップの開催

開催日時（平成20年・21年）	地 区	会 場	参加者数
12月2日（火）午後7時	沢 渡	三 和 ふ れ あ い 館	20名
12月9日（火）午後7時	永 井	下 永 井 集 会 所	12名
12月10日（水）午後7時	差 塩	差 塩 農 業 後 繙 者 セン タ ー	21名
12月11日（木）午後7時	三 坂	中 三 坂 公 民 館	51名
12月12日（金）午後7時	永 戸	合 戸 集 会 所	7名
1月29日（木）午後7時	欠席者対象	三 和 ふ れ あ い 館	33名
合 計			144名

3. 作業委員会の組織と開催

事業を進める実動部隊となる作業委員を11地区より1名ずつ選出し、作業委員会を組織した。そこでは、アンケートやワークショップを通して得ることのできた意見の精査や集約をはじめ、事業の進め方等についても協議してきた。

作業委員会の開催

回	開催日時（平成21年）	内容（報告事項・協議事項）
第1回	1月29日（木）午後7時	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度の目標、アンケートの実施状況 ● ワークショップの実施状況 ● 報告会の開催日時 ● 次回打ち合わせの日時 ● 今後の進め方について
第2回	2月12日（木）午後7時	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート及び地区懇談会結果の精査について ● 全体報告会の開催日程について ● 統計データの整理・分析にみる各地区の現状について
第3回	3月19日（木）午後8時30分	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度の事業の反省 ● 来年度の事業について ● その他

※いずれの会場も、三和ふれあい館

4. 全体会・報告会の開催

事業の最後に全体報告会を開催し、事業の成果について報告するとともに、まちづくりに向けた意見交換を行った。

- 開催日：平成21年3月19日（木）午後7時より 参加者 30名

5. まちづくり通信の発行

さらなる意見の収集を目的として、地区懇談会の結果をまちづくり通信として発行し、全世帯に向けて配布した。

6. まちづくり講演会の開催

まちづくりについての理解を深め、問題意識を共有することを目的として、外部より専門家を招聘し、まちづくりに関する講演会を開催した。

- 開催日：平成20年11月29日（土）午後6時より
- 講 師：斎藤義則先生（茨城大学人文学部教授）
- 演 題：「都市農村交流による地域振興について ——茨城県で考えたことを事例に—」
- 参加者：23名

平成21年度

平成21年度には、次のことに取り組んできた。

1. 第1回地区懇談会・ワークショップの開催

住民一人一人の生の声を聞き、町の現状と課題を明らかにし、まちづくりについての意見交換と、その必要性についての意識を共有することを目的として、ワークショップを開催した。第1回目の開催については、町内において大字を単位とする11の地区毎に開催をした。その概要を次表に示す。最終的には、合計149名の参加者の下、進められた。

第1回地区懇談会開催概要

開催日時（平成21年）	地 区	会 場	参加者数
7月11日（土）午後7時	渡戸	渡戸公民館	18名
7月12日（日）午後6時	中寺	中寺公民館	29名
7月15日（水）午後7時	上市萱	上市萱生活改善センター	8名
7月17日（金）午後7時	合戸	合戸集会所	15名
7月18日（土）午後7時	下永井	下永井集会所	13名
7月22日（水）午後7時	中三坂	中三坂公民館	14名
7月31日（金）午後7時	差塩	差塩農業後継者センター	18名
8月1日（土）午後7時	上三坂	上三坂公民館	16名
8月6日（木）午後7時	下市萱	三和ふれあい館	6名
8月8日（土）午後7時	下三坂	下三坂集会所	6名
8月9日（日）午後7時	上永井	上永井公民館	6名
合 計			149名

2. まち歩きの実施

第1回地区懇談会において提出された意見の中で、魅力・財産であるといわれる場所を中心として、どのような状況であるのかについて確認するために、まち歩きを実施し、現地を見て回った。その際に、写真等のデータも収集した。その概要を次表に示す。

まち歩きの開催概要

開催日時（平成21年）	地 区	参加者数
10月11日（日）午前9時	中三坂	70名
10月14日（水）午前9時	中寺、下市萱、上市萱	13名
10月14日（水）午後1時	上三坂、下三坂	8名
10月15日（木）午前9時	合戸、渡戸	5名
10月22日（木）午前9時	差塩	5名
10月22日（木）午後1時	上永井、下永井	5名
合 計		106名

3. 各種行事への参加と実態調査について

魅力・財産の一つでもあり、コミュニティの単位としても位置づけることのできる町内各地区で行われる各種行事に参加し、その実態について調査した。その概要を次表に示す。

各種行事への参加と実態調査概要

開催日時（平成21年）	地 区	行 事
9月13日（日）午後1時	下市萱	諏訪神社例大祭
9月20日（日）午後7時	渡 戸	御塚神社例祭（獅子祭）
10月11日（日）午前9時	中三坂	区民体育祭
10月25日（日）午前10時	全地区	三和の里フェスティバル
10月31日（土）午前9時	差 塩	差塩フェスティバル

4. 第2回地区懇談会・ワークショップの開催

第1回地区懇談会とまち歩きを通して各地区で抽出することのできた魅力・財産について、まちづくり要素として具体化・明確化するために、2回目のワークショップを開催した。その概要を次表に示す。

第2回地区懇談会の開催概要

開催日時（平成21年・22年）	地 区	会 場	参加者数
11月18日（水）午後7時	渡 戸	渡 戸 公 民 館	6名
11月22日（日）午後7時	合 戸	合 戸 集 会 所	6名
12月6日（日）午後7時	下三坂	下 三 坂 集 会 所	6名
12月9日（水）午後7時	上三坂	上 三 坂 公 民 館	28名
12月14日（月）午後7時	中三坂	中 三 坂 公 民 館	10名
12月16日（水）午後7時	下市萱	三 和 ふ れ あ い 館	5名
12月18日（金）午後7時	下永井	下 永 井 集 会 所	4名
12月19日（土）午後7時	上市萱	上 市 萱 生 活 改 善 センター	6名
12月20日（日）午後7時	差 塩	差 塩 農 業 後 繙 者 センター	11名
12月21日（月）午後7時	上永井	上 永 井 公 民 館	3名
1月12日（火）午後6時	中 寺	中 寺 公 民 館	8名
合 計			93名

5. 小中学生アンケート調査の実施

町の将来を担う世代の町や地区における生活の現状を把握し、その評価を明らかにすることを目的として、町内の全小中学生を対象としてアンケート調査を実施した。調査は、町内の5小学校、4中学校の全生徒を対象として、配票調査法により実施した。調査項目は、平成20年度に全世帯に対して実施したアンケートの内容を反映させる形で「自身のこと」、「三和町のようすと町に対する考え方について」、「三和町にある魅力・財産について」、「三和町での生活とこれからについて」の4項目よりなり、合計13問を設定した。回収数の合計は、小学生103票、中学生87票であった。その結果、小中学生がみる三和町のようすや魅力・財産、地区や町での生活についての評価が明らかとなった。

6. 作業委員会の組織と開催

平成20年度と同様に、事業を進める中心となる作業委員を11地区より1名ずつ選出し、作業委員会を組織した。そこでは、アンケートやワークショップを通して得ることのできた意見の精査や集約をはじめ、事業の進め方等についても適宜協議してきた。

作業委員会の開催

回	開催日時（平成21年・22年）	内容（報告事項・協議事項）
第1回	6月4日（木）午後7時	● 今年度の事業の進め方について
第2回	9月8日（火）午後7時	● 第1回地区懇談会の開催報告、まち歩きの開催について ● 高専学生の町内探索・調査と各種行事への参加について ● 第2回地区懇談会の開催について、アンケートの実施について
第3回	10月7日（水）午後7時	● 第1回地区懇談会の結果整理について ● まち歩きの開催について ● 小中学生対象のアンケート実施について ● 第2回地区懇談会の開催について
第4回	2月5日（金）午後7時	● 地区懇談会結果の整理について ● 小中学生アンケートの実施と結果について ● 今後の予定について

※いずれの回も、三和ふれあい館にて開催。



平成22年度

平成22年度は、次のことに取り組んできた。

1. 第1回地区懇談会・ワークショップの開催

平成21年度までの魅力・財産を中心とする内容の一方で、日常生活における身近な生活環境における問題点を明らかにするために、引き続き大字11地区毎に地区懇談会・ワークショップを開催した。第1回目の開催の概要を次表に示す。最終的には合計105名の参加者の下に進められた。

第1回地区懇談会の開催概要

開催日時（平成22年）	地 区	会 場	参加者数
9月9日（木）午後7時	合戸	合戸集会所	9名
9月10日（金）午後7時	下永井	下永井集会所	5名
9月12日（日）午後7時	差塩	差塩農業後継者センター	16名
9月13日（月）午後7時	下市萱	三和ふれあい館	9名
9月14日（火）午後7時	中寺	中寺公民館	15名
9月15日（水）午後7時	上市萱	上市萱公民館	4名
9月18日（土）午後7時	中三坂	中三坂公民館	8名
9月19日（日）午後7時	上永井	上永井公民館	5名
10月2日（土）午後7時	渡戸	渡戸公民館	6名
10月3日（日）午後7時	下三坂	下三坂集会所	7名
10月4日（月）午後7時	上三坂	上三坂公民館	21名
合 計			105名

2. 第2回地区懇談会・ワークショップの開催

第1回地区懇談会を通して各地区で抽出することのできた問題点について、まちづくり要素として具体化・明確化するために、また将来の地区や町のあり方について検討するために、2回目の地区懇談会・ワークショップを開催した。その概要を次表に示す。最終的には、合計146名の参加者の下に進められた。

3. 作業委員会の開催

平成20年度、21年度と同様に、事業を進める中心となる作業委員を11地区より1名ずつ選出し、作業委員会を組織した。そこでは、ワークショップを通して得ることができた意見の精査や集約をはじめ、事業の進め方等についても適宜協議してきた。

4. まちづくり通信の発行

第1回地区懇談会の結果をまちづくり通信として発行し、全世帯に向けてその内容について周知するとともに、意見を募った。

第2回地区懇談会の開催概要

開催日時（平成22年・23年）	地 区	会 場	参加者数
12月19日（日）午後7時	差 塩	差 塩 農 業 後 繙 者 セン タ ー	17名
1月9日（日）午後6時	下三坂	下 三 坂 集 会 所	10名
1月10日（月）午後6時30分	中 寺	中 寺 公 民 館	13名
1月14日（金）午後6時30分	中三坂	中 三 坂 公 民 館	24名
1月15日（土）午後7時	渡 戸	渡 戸 公 民 館	25名
1月16日（日）午後7時	上永井	上 永 井 公 民 館	12名
1月18日（火）午後7時	下永井	下 永 井 集 会 所	4名
1月19日（水）午後7時	下市萱	三 和 ふ れ あ い 館	13名
1月26日（水）午後7時	合 戸	合 戸 集 会 所	6名
1月31日（月）午後7時	上三坂	上 三 坂 公 民 館	14名
2月2日（水）午後7時	上市萱	上 市 萱 公 民 館	8名
合 計			146名

作 業 委 員 会 の 開 催

回	開催日時（平成22年・23年）	内容（報告事項・協議事項）
第1回	8月3日（火）午後7時	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度の事業の進め方について ● 調査に対するご協力のお願い
第2回	12月1日（水）午後7時	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回地区懇談会のまとめ（まちづくり通信）について ● 今後の進め方について
第3回	3月16日（水）（予定）午後7時	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本構想の骨子について ● その他 <p style="text-align: right;">*東日本大震災のため中止</p>

※いずれの回も、三和ふれあい館にて開催。



平成23年度

平成23年度は、次のことに取り組んできた。

1. 三和町まちづくり基本構想策定委員会の開催

平成22年度までに取り組んできた、「中山間地域における市民と学校が連携したまちづくり事業」の報告書を基に、三和町まちづくり基本構想の具体的な内容を策定するために、平成23年8月23日に策定委員会を設立し、3回の策定委員会を開催した。概要は、次表の通り。

策 定 委 員 会 の 開 催

回	開催日時（平成23年・平成24年）	内容（報告事項・協議事項）	参加者数
第1回	平成23年 8月23日（火）午後7時	<ul style="list-style-type: none"> ● 三和町まちづくり基本構想策定委員会役員選出について ● 基本構想策定スケジュールについて ● 作業部会の設置について 	26名
第2回	平成24年 1月30日（月）午後7時	<ul style="list-style-type: none"> ● 三和町まちづくり基本構想素案の承認について ● 三和町まちづくり基本構想素案に対する市民意見募集（パブリックコメント）について ● 今後のスケジュールについて 	21名
第3回	3月28日（水）午後7時	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本構想素案に対する市民意見募集（パブリックコメント）の結果について ● 基本構想の冊子化について ● 今後のスケジュールについて 	21名

※いずれの回も、三和ふれあい館にて開催。

2. 三和町まちづくり基本構想策定委員会作業部会の開催

基本構想の具体的な内容を協議するため、作業部会を設置し、7回の作業部会を開催した。概要は、次表の通り。

作 業 部 会 の 開 催

回	開催日時（平成23年・平成24年）	内容（報告事項・協議事項）	参加者数
第1回	平成23年 8月23日（火）午後7時30分	<ul style="list-style-type: none"> ● 作業内容について ● 作業スケジュールについて 	15名
第2回	9月27日（火）午後7時	<ul style="list-style-type: none"> ● 「基本構想の構成」の策定について ● 「理念、目標、構想の柱」の策定について 	18名
第3回	10月20日（木）午後7時	<ul style="list-style-type: none"> ● 「理念、目標、構想の柱」の確認について ● 「構想の体系」の策定について ● 構想の柱1に関するもの（検討） 	18名

回	開催日時（平成23年・平成24年）	内容（報告事項・協議事項）	参加者数
第4回	11月7日（月）午後7時	<ul style="list-style-type: none"> ● 「構想の体系」の策定について <ul style="list-style-type: none"> ・構想の柱1に関するもの（確認） ・構想の柱2に関するもの（検討） ・構想の柱3に関するもの（検討） 	14名
第5回	11月29日（火）午後7時	<ul style="list-style-type: none"> ● 「構想の体系」の策定について <ul style="list-style-type: none"> ・構想の柱2・3に関するもの（確認） ・構想の柱4に関するもの（検討） 	14名
第6回	12月20日（火）午後7時	<ul style="list-style-type: none"> ● 「構想の体系」の策定について <ul style="list-style-type: none"> ・構想の柱4に関するもの（確認） ●これまでの作業内容の確認 ●構想の体系の分類（役割と時期）について ●今後のスケジュールについて 	17名
第7回	平成24年 3月21日（水）午後7時	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本構想の冊子化について 	11名

※いずれの回も、三和ふれあい館にて開催。



事業組織

【平成20年度～21年度】：「大学等と地域の連携モデル創造事業」

【平成22年度】：「大学等と地域の連携したまちづくり推進事業」

テーマ：「中山間地域における市民と学校が連携したまちづくり」

● 三和町地域振興協議会

会長 柴崎 満

副会長 田子正太郎 松崎 巖（平成20・21年度） 大竹 浩一（平成22年度）

● まちづくり事業作業委員会

●上三坂 小野 多門 ●中三坂 秋山 孝男 ●下三坂 草野 喜三

●差 塩 草野久仁昭（平成20・21年度） 鈴木 秀昭（平成22年度）

●上永井 阿部 浩二 ●下永井 根本 一郎 ●合 戸 野口 春恵

●渡 戸 草野 浩三 ●中 寺 鈴木 孝 ●下市萱 澤田 秀樹

●上市萱 加藤 正直（平成20・21年度） 東谷 幸一（平成22年度）

● 三和支所

支所長 若松和比古 主幹（兼）次長 吾妻 立兒

地域振興担当員 黒川 政彦（平成20年度） 會田 辰巳（平成21・22年度）

● 福島工業高等専門学校

建設環境工学科 齊藤研究室 准教授 齊藤 充弘

●平成20年度

5年 阿部 美緒 佐川 洋亮 仲西 唯 松本 宗浩

4年 上川 将彦 草野 秀平 青天目英之 吉田 奈月 渡邊 祥馬

●平成21年度

専攻課1年 仲西 唯

5年 阿部 美緒 上川 将彦 草野 秀平 青天目英之 吉田 奈月 渡邊 祥馬

4年 加藤 雅俊 齊藤 寛尚 清水佐久夜 船田 公一 渡辺 彩花

●平成22年度

専攻課2年 仲西 唯

5年 岩崎 廣和 加藤 雅俊 清水佐久夜 船田 公一 渡辺 彩花

4年 石井 侑希 加藤 淳亮 齊藤 寛尚 佐藤 京平 圓山 亮

【平成23年度】

● **三和町まちづくり基本構想策定委員会**

委員長 柴崎 満（区長会）

副委員長 大竹 浩一（区長会） 大竹 公治（地域振興協議会）

委 員 （区長会）

永山 肇一 會田 良弘 佐藤 良廣 草野久仁昭 菅谷 一雄 合津 重正

草野 信市 佐藤 信一 加藤 正直

（地域振興協議会）

田子正太郎 若松 律子 合津 憲一 岡部 義邦 永久保大樹 鈴木 克哉

菅谷猪佐雄 永山シゲヨ 大平 瑞男 佐藤 昇司

（まちづくり作業委員）

小野 多門 秋山 孝男 草野 喜三 鈴木 秀昭 阿部 浩二 根本 一郎

野口 春惠 草野 浩三 鈴木 孝 澤田 秀樹 東谷 幸一

● **三和支所**

支所長 野口 由吉

主幹兼次長 吾妻 立兒

主幹兼地域振興担当員 草野 浩一

● **福島工業高等専門学校**

建設環境工学科 齊藤研究室 准教授 齊藤充弘

● 物質・環境システム工学専攻

1年 加藤 雅俊 渡辺 彩花

● 建設環境工学科

5年 石井 侑希 大内 梨也 加藤 洪亮 齊藤 寛尚 佐藤 京平 圓山 亮

【平成24年度】

● **三和町地域振興協議会（基本構想の冊子作成）**

会 長 永山 肇一

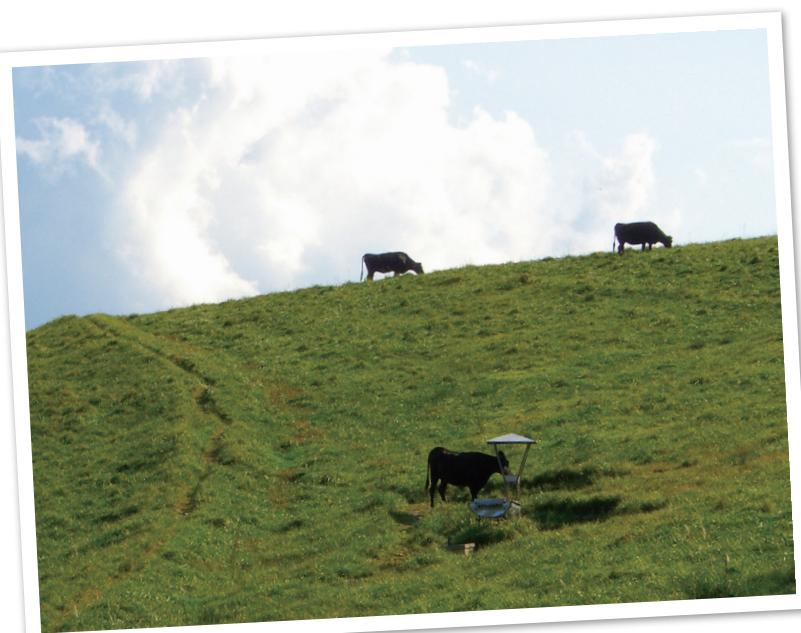


三和町まちづくり基本構想

平成24年3月策定
三和町まちづくり基本構想策定委員会 編

発行日 平成25年3月（冊子）
発行者 三和町地域振興協議会

事務局 〒970-1372 いわき市三和町下市萱字竹ノ内114-1
(いわき市三和支所内)
電話：0246-86-2111
FAX：0246-86-2544



三和町まちづくり基本構想策定委員会